

# 新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



2020年夏号



## 当院の新型コロナウイルス感染症対策について

感染管理認定看護師 小山 和子

新型コロナウイルス感染症は今や世界各地に広がり、医療的問題のみならず、経済的影響を含めた社会問題になっています。

新潟県では、新型コロナウイルス感染症対策として行政と県内医療機関の連携が図られ、各医療機関の役割分担が提案されました。これにより、当院の役割は新型コロナウイルス感染症の確定患者様の受入れは行わず、がん診療連携拠点病院として「がん診療を継続する」方針となりました。

当院では、本年2月上旬に新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、院内の環境整備やマニュアル作成などを行なっています。当院の多くの患者さんの特徴は、原疾患に伴う免疫力低下と、発熱など感染症に似た症状が見られることです。患者さんを感染から守るために、基本的に病原体を院内に持ち込ませないための対策として、原則面会禁止の継続や、職員の県外等への移動制限について慎重に対応しています。

また、当院治療中の患者さんが新型コロナウイルス感染症を疑われた場合は、速やかに保健所と連携してPCR検査を行い、診断がつくまで当院で診療を行っています。

今後、簡便で精度の高い検査方法の確立、ワクチンと治療薬の開発が一刻も早く望まれます。それまでの間、私たち県民は新しい生活様式をすすめることが大切であり、医療従事者としては新しい診療体制の構築が急務と考えています。

患者さん、職員を感染から守るために今後も感染症対策に努めたいと思います。

### お知らせ

例年9月に開催しておりました市民公開講座につきましては、今年度の開催を中止とさせていただきます。

### Contents

- 診療科のご紹介 ・小児科 ・放射線治療科  
・放射線診断科 ・泌尿器科
- 緩和ケアチームのご紹介
- 医師主導治験・クラウドファンディング支援のお願い
- 令和2年8月外来診療予定表

## 診療科のご紹介 ～小児科～

医師	卒業年	主な資格
小川 淳	1986年	日本小児科学会専門医、日本血液学会血液専門医 日本小児血液がん学会専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
渡辺 輝浩	1989年	日本小児科学会専門医、日本血液学会血液専門医・指導医 日本小児血液がん学会専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医
阿部 咲子	1999年	日本小児科学会専門医、日本血液学会血液専門医 日本小児血液がん学会専門医
細貝 亮介	2003年	日本小児科学会専門医、日本血液学会血液専門医 日本小児血液がん学会専門医、日本血栓止血学会認定医

### 【当科の特徴】

- 当科は日本小児がん研究グループ（JCCG）に属しており、新潟県内の小児期及び思春期の患者さんに安全で最適ながん医療を提供しています。JCCGの小児急性リンパ性白血病臨床試験の登録者数は全国11位で、最も頻度の高い小児がんである本疾患に豊富な治療経験があります。
- また日本造血細胞移植学会移植認定施設として難治性造血器腫瘍、固形腫瘍や血液疾患の患者さんに骨髄移植、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植を実施しています。現在まで200例以上の移植経験を有しています。
- 小児がんの新しい治療を開発する目的で企業治験や医師主導治験を行っています。
- 小児がん患者さんの80%が治癒する時代になったため、現在晩期合併症がクローズアップされています。当院では晩期合併症の早期発見、早期治療を目的に院内成人診療科、新潟大学小児科の協力を得て長期フォローアップ体制を整備しています。
- 特に二次がんは小児がん生存者の生存率低下に直結する重要な晩期合併症です。小児がん治療後20年間で二次がんの累積発症割合は2～5%とされ、これは一般集団より3～20倍高いとされていることは皆さんに知っておいていただきたい事実です。当科ではがんセンターの強みを生かして院内成人診療科と連携し二次がんの早期発見、早期治療に取り組んでいます。



## 診療科のご紹介

## ～放射線治療科～



医師	卒業年	主な資格
松本 康男	1989年	放射線治療専門医、指導医
鮎川 文夫	2001年	放射線治療専門医、指導医 がん治療認定医 東洋医学会認定漢方専門医
金本 彩恵	2005年	放射線治療専門医、指導医
杉田 公 (エルダー医)	1984年	放射線治療専門医、指導医

### 【当科の特徴】

1. 肺癌に対する体幹部定位放射線治療の症例数が国内随一
2. 組織内照射、RI内服治療、など放射線治療に関する多くの治療が可能

当院は県内施設では放射線治療患者数が最も多く、放射線治療装置の数も最多です。現在、放射線治療専門医4名（上記）、放射線治療担当技師（放射線治療専門放射線技師1名）11名、医学物理士2名（放射線治療品質管理士資格あり）、がん放射線療法看護認定看護師1名の体制で外来診療は月曜日から金曜日まで毎日行っています。

当科の最大の特徴は、肺病巣（肺癌、転移性肺腫瘍）に対する定位放射線治療において、日本一の症例数であるということです。2005年に定位放射線治療専用機として初代のノバリス（ブレインラボ社）が日本で4番目に導入され、脳、頭頸部腫瘍、肺、肝の病巣を中心に治療を行ってまいりました。県内で最初に専用機が導入されたこともあり、沢山の症例をご紹介頂くことができました。近年では、前立腺癌、頭頸部癌を中心に強度変調照射（IMRT）・回転原体強度変調照射（VMAT）などの高精度放射線治療も行っていますが、適応する部位の拡大を図っています。

また、当院では小線源治療（体の中から照射する治療）も行っています。内腔をもつ臓器（子宮、食道、気管支、胆管など）では、その内腔から小さな線源（イリジウム）を配置して癌病巣に大量の放射線を照射するという遠隔操作密封小線源治療（Remote After Loading System：略してRALS）を行っています。腫瘍が大きい場合、内腔だけからでは線量が十分投入できませんので、癌病巣に線源を直接刺入する組織内照射も同時に行うことがあり、主に子宮頸癌に行っています。その他にも前立腺癌に対するI-125シード治療、甲状腺癌やバセドウ病に対するI-131内服治療、去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対するゾーフイゴ（Ra-223）注などの小線源治療も行っています。

今年4月から定位放射線治療の保険適応が大幅に拡大され、多くの臓器に対して保険での定位放射線治療が可能となりました。また本年度導入されるトモセラピー「Radixact」（アキュレイ社製）により、従来の放射線治療より副作用を抑えた身体にやさしい治療（IMRT）をより多くの患者様にご提供できるようになると考えています。放射線治療を熟知した技師により高精度な治療を行っており、患者さんには安心して治療を受けていただけているものと思っています。

# 診療科のご紹介

# ～放射線診断科～

医師	卒業年	主な資格
<b>関 裕史</b> 	1987年	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・指導医 日本インターベンショナルラジオロジー学会認定専門医・指導医 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医
<b>古泉 直也</b> 	1987年	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・指導医 日本核医学会認定専門医、PET 認定医 肺がん CT 検診認定医 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医
<b>尾崎 利郎</b> 	1994年	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・指導医 日本核医学会認定専門医・指導医、PET 認定医 日本インターベンショナルラジオロジー学会認定専門医 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医
<b>麻谷 美奈</b> 	1994年	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・指導医 日本核医学会認定専門医、PET 認定医 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医 肺がん CT 検診認定医
<b>大井 博之</b> 	1999年	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・指導医 日本核医学会認定専門医、PET 認定医 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医
<b>布澤 悠磨</b> 	2016年	

## 【当科の特徴】

- |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 各種分野の放射線診断専門医が揃う   | 2. 高精細画像データを3次元画像診断にフル活用    |
| 3. PET-CT の経験、実績は県内随一 | 4. IVR（画像下治療）で、がん治療の可能性を広げる |
1. 臓器・領域別分野（胸部、肝胆膵、婦人科疾患等）、核医学、IVR など各種分野に専門領域を持つ放射線診断専門医が揃い、臨床各科と緊密に連携を取って画像診断・IVRを行っています。
  2. 256列～64列マルチスライスCT装置が稼働し、年間約25,000件のCT検査を実施しています。約1mmの厚みで体内を細部にスキャンした膨大なデータが画像サーバーに保存され、病理像に迫る画像評価により早期肺癌の検出に寄与するほか、画像再構成による多方向からの観察や3次元画像を用いた術前シミュレーションに常時活用できる環境を整備しています。
  3. PET-CTは通常の画像検査では検出の難しい転移・再発の診断や治療効果の判定などに有用です。県内では最初に当院に設置され、臨床経験やデータ蓄積は県内随一です。ポジトロン核種を製造する装置（サイクロトロン）を備え、18F-FDGと呼ばれる半減期の短いPET検査薬を院内精製して画像精度を管理しています。アイソトープセンターには核医学専門医・PET認定医が専従し、地域連携・相談支援センターからの検査予約で院外の依頼にも応えています。

4. 画像誘導下に体内に針や管を挿入して病変を治療する IVR (Interventional Radiology、画像下治療) を行っています。IVR-CT 搭載血管撮影装置を活用し、がん病変に対する動注化学療法や塞栓療法 (腫瘍 IVR)、肺癌の上大静脈閉塞で顔面浮腫に苦しむ患者へのステント留置 (緩和 IVR)、術後出血や腫瘍出血に対する止血塞栓術 (救急 IVR)、CT ガイド下生検による病理組織・ゲノム診断など、がん治療の可能性を広げています。

## 診療科のご紹介

## ～泌尿器科～

### 【当科の特徴】

泌尿器科は尿路系 (腎、腎盂、尿管、膀胱、尿道)、男性生殖器系 (前立腺、精巣など)、腎や尿管の周囲 (後腹膜腔) や副腎の病気について、診断と治療を行います。これらの臓器のがんや腫瘍の他、腎不全 (例えば腎移植)、前立腺疾患による排尿障害 (前立腺肥大症)、脳梗塞や脊髄損傷後の排尿障害 (神経因性膀胱)、女性の排尿異常 (過活動膀胱、腹圧性尿失禁)、男性性機能障害 (勃起障害、男性不妊症)、尿路系や男性性器奇形などが泌尿器科の守備範囲です。

当科はこれらのうち、がんや良性腫瘍を主に治療しています。例えば、膀胱がん症例の全国登録によれば当科が常に上位の1-2位にランクされていますし、腎がんもトップクラスです。最近、日本でも増加している前立腺癌は当科でも10年前に比べて10倍以上の患者さんを治療しています。膀胱がん、腎がん、前立腺がんのそれぞれについては厚生労働省の研究班の班員です。

医師	卒業年	主な資格
谷川 俊貴 	1984 年	泌尿器科専門医、指導医
斎藤 俊弘 	1988 年	泌尿器科専門医、指導医 がん治療認定医
小林 和博 	1996 年	泌尿器科専門医、指導医
結城 恵理 	2008 年	泌尿器科専門医、指導医
長谷川 素 	2015 年	

### 【こんな時に受診をお願いします】

尿に血が混じって赤い時—膀胱など尿路系の癌や、膀胱炎、腎や尿管の結石のことがあります。排尿すると痛い—膀胱炎や膀胱上皮内がんの可能性もあります。尿の勢いが弱い、尿の回数が多い、尿漏れがある—男性ならば前立腺の病気が疑われます。脳梗塞など神経系の病気でも排尿がうまくいかないことがあります。また、開業医の先生や他の病院から紹介される患者さんが多く、検診や人間ドックの検査結果により受診される患者さんも増えています。症状がなくても、血液検査や超音波検査の結果泌尿器科へ行くように指示されることもあり、受診をお願いいたします。

# 緩和ケアチーム やっています

緩和ケア科部長 本間 英之

当院では「緩和ケアチーム」をやっています。「緩和ケア外来」と「緩和ケア病棟」だけではありません。ですが、「外来・病棟」と何が違うか、当院に職員として勤務されている方でも難しい様です。

当院では 90%以上の患者さんが、がんとその疑いで受診します。最近では初診段階で既に「がん」の診断が確定していることも多く、不安や落胆を強く感じたまま受診される方も見受けられます。殆どの方は、ご自身で乗り越えて治療に臨まれます。ですが、例えば「こんなに不安なのは、がんの症状か副作用か分からないが体調が悪いからだ。きっと自分が弱い人間で、家族に負担を掛けて申し訳ないことが気になっている上に、この治療の選択が正しかったか、自信が持てないが主治医に聞くに聞けないことも原因だ。」という方がいた場合、患者さん本人も、事情を知った医療スタッフも、いったい誰に相談すればいいのか困ってしまいます。一つ一つの問題の相談相手は、主治医や精神科医・臨床心理士、医療相談員や看護師でしょう。ですが、問題を各々の担当者に相談し、さらに他の担当者に結果を伝えて解決を図る過程は、ただでさえ診断と治療で弱っている患者さんご家族にとっては負担が非常に大きいです。さらに問題それぞれが相互に干渉し、単一の相談先で解決出来ないことも多いのです(例としてずいぶん特殊な患者を出したな、と思われるかもしれませんが、当院緩和ケアチームで毎週の様に出会う典型例です…)。

「緩和ケアチーム」という用語に、痛み・心の問題・終末期患者や家族支援などのイメージを持つ医療者が多いのは事実です(一般の方はイメージを持つことも難しい様です)。私達緩和ケアチームでは積極的抗がん治療開始前中後いずれの時期を問わず、患者さん・ご家族が抱える解決困難な種々の問題について、主治医と協力のもと各領域の専門家集団として可能な限りワンストップで問題解決のお手伝いをしています。

県内医療機関の皆様にご依頼です。当院への御紹介に際して患者さん・ご家族には「困ったことがあったら、診断前でも治療中でも、近くの看護師さんに『緩和ケアチームに連絡してください。』と伝えなさい。」と御言葉添え下さい。信頼される皆様から紹介され、不安のままやむを得ず当院の診療を選択された患者さん・ご家族の気持ちに寄りそいながら、共に解決を図って参ります。



わたしたちが  
緩和ケアチームです！



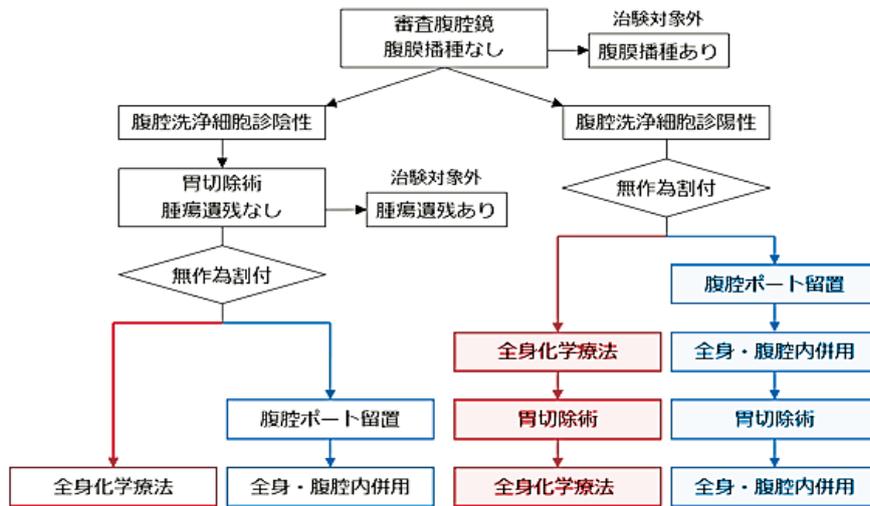
チームカンファレンスの様子

# スキルス胃癌に対する医師主導治験とクラウドファンディング支援のお願い

消化器外科部長 藪崎 裕

難治性がんの代表であるスキルス胃癌は、手術で切除できた場合でも術後に腹膜に再発することが多く5年生存率は約20%に過ぎません。そのため、化学療法が重要な役割を担っていますが、現在の標準的な治療では腹膜播種に対する効果は十分ではありません。これまでに当院では、腹膜播種を伴う胃癌を対象として、抗癌剤を直接腹部に注入する腹腔内化学療法の臨床研究を主に先進医療制度下に実施し、良好な成績を報告してきました。

現在、より有効な治療法を開発するため、東京大学医学部附属病院と全国の協力医療機関は医師主導治験「4型進行胃癌に対する術後または周術期補助化学療法としての全身・腹腔内併用化学療法と全身化学療法との無作為化比較第III相試験」(当院は2020年10月より開始予定)を計画しています。



新しい腹腔内化学療法を開発することにより、より多くの患者さんに治癒や長期生存をもたらすことが期待されます。更に、研究成果を基に薬事承認を得ることができれば、新たな標準治療として日本中の患者さんの助けになることが期待されます。

また、この医師主導治験は質の高い研究開発を迅速に遂行するために、このたび基金(クラウドファンディング)を立ち上げております。現状では治すことが難しいスキルス胃癌の患者さんにより良い治療を提供できるよう、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東大基金のページ：<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt117>

本治験のページ：<http://plaza.umin.ac.jp/~phoenix2/scirrhous/>

電子パンフレット：[http://plaza.umin.ac.jp/~phoenix2/file/funding\\_pamphlet.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~phoenix2/file/funding_pamphlet.pdf)



Twitter Facebook サイトマップ English 寄付のしかた 選別 プロジェクトを探す 寄付の例典 寄付者の声 活動成果 寄付する ログイン

## スキルス胃癌、肺癌、大腸癌に対する腹腔内化学療法の研究開発



※ご不明な点がございましたら、当院「地域連携・相談支援センター」TEL: 025-266-5111 (代表 8:30~17:00) までお問い合わせください。

新潟県立がんセンター新潟病院 令和2年8月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 <small>(金曜Cは新潟大学より)</small>	401診	D 栗原 太郎	A 小方 則夫	D 廣瀬 貴之	D 栗原 太郎	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診		F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 小林 正明	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 田中 洋史	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 盛田 景介	A 菅野 智之	A 塩路 和彦	C 黒川 孝国 (AM) C 尾崎 和幸 (PM)
	201診	B 下川路伊亮		B 梶原 大季		B 馬場 順子
	新患 (医師2名隔週交替)	8/3 F谷 B三浦	8/4 B小山 D石黒	8/5A青柳 E大山	8/6 A盛田 B馬場	8/7 B梶原A塩路
			8/11 A菅野 D栗原	8/12 D今井 E大山	8/13B馬場 C大倉	8/14 B下川路 A栗田
		8/17 A小林 F谷	8/18 D石黒 B小山	8/19 E大山 A青柳	8/20 D廣瀬 A盛田	8/21 A塩路 B下川路
8/24 B三浦 A小林		8/25 D栗原 A菅野	8/26 B田中 D今井	8/27 C大倉 D廣瀬	8/28 A栗田 B梶原	
8/31 F谷 B三浦		9/1 B小山 D石黒	9/2 A青柳 B田中	9/3 A盛田 B馬場	9/4 B下川路 A塩路	
	A：消化器 B：呼吸器 C：循環器 D：血液 E：内分泌 F：糖尿病					
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	阿部 咲子	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診		第3週専門外来(14:00~)	細貝亮介	専門外来(PM)	阿部 咲子
	*新患は紹介状が必要です。					
乳腺外科 消化器外科	1 診	神林 智寿子(乳腺)	藪崎 裕(胃)	野村 達也(肝胆脾)	瀧井 康公(大腸)	中川 悟(食道・胃)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	瀧井 康公(大腸)	丸山 聡(大腸)	番場 竹生(食道・胃)
	3 診	五十嵐麻由子(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	野上 仁(大腸)	
	4 診	平井裕美子(乳腺)	真鍋 高宏(胃)	高野 可赴(肝胆脾)	阿部 馨(大腸)	田中 亮(食道・胃)
	予防セク-乳腺		金子 耕司	五十嵐麻由子	神林 智寿子	神林 智寿子
	*乳腺外科は原則予約制です。					
呼吸器 外科	1 診	予約のみ	青木 正	予約のみ	予約のみ	青木正(AM10時~)
	2 診		岡田 英			岡田 英
骨軟部腫瘍 整形外科	1 診	第2,4週 畠野	山岸 哲郎(AM)		山岸 哲郎	柳橋 和仁
	2 診	柳橋 和仁			畠野 宏史	1,3,5週 畠野 2,4週 山岸
	*完全紹介制です。					
脳神経内科(新潟大学より)		中島 章博		二宮 格		
精神科(午前のみ)			小林 真理		小林 真理	小林 真理
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。完全紹介制・完全予約制です。 <small>富山種入(精神内科)PM</small>					
脳神経外科	1 診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2 診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3 診					宇塚 岳夫(4週)PM
婦人科	1 診	生野 寿史	菊池 朗(AM)	菊池 朗	生野 寿史	堀内 綾乃
	2 診	高橋 宏太郎	堀内 綾乃	生野 寿史	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・山口)	高橋 宏太郎(AM)
	3 診	予約のみ	笹川 基(AM)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野)	菊池 朗(予約のみ)	予約のみ
皮膚科	1 診 <small>(主に新潟)</small>	高塚 純子	佐々木 仁	竹之内 辰也	松井 悠	高塚(1,3,5週) 佐々木(2,4週)
	2 診 <small>(主に富山)</small>	佐々木 仁	竹之内 辰也	佐々木(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	松井 悠	松井 悠	松井 悠	佐々木 仁	松井 悠
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	長谷川 素	齋藤 俊弘	齋藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	結城 恵理	小林 和博	結城 恵理	長谷川 素
	*新患は紹介状が必要です。					
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(AM)	佐藤 敬子(AM)	佐藤 敬子(AM)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎(再来)	富樫 孝文(新患)	予約のみ	佐藤 雄一郎(新患)	鎌田 悠志(新患AM)
	2 診	西條 幸平(新患)	西條 幸平(再来)		富樫 孝文(再来)	
	3 診	富樫 孝文	鎌田 悠志		西條 幸平	
	*新患は紹介状が必要です。					
放射線 治療科	1 診	鮎川 文夫	金本(杉田)	鮎川 文夫	鮎川 文夫	鮎川 文夫
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男
	3 診	金本(杉田)	鮎川 文夫	金本(杉田)	金本(杉田)	金本(杉田)
	*木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。					
麻酔科	1 診 <small>(ベインクリニック)</small>	富田 美佐緒 高松 美砂子	富田 美佐緒 高松 美砂子	富田 美佐緒	高松(1,3,5週) 富田(2,4週)	富田 美佐緒 高松 美砂子 (1,3,5週)
	2 診 <small>(漢方外来)</small>	渋谷 智栄子		渋谷 智栄子	渋谷 智栄子	渋谷 智栄子(2,4週)
	術前		阿部 崇			
	完全予約制です。					
形成外科		2,4週 13~14時(再来)		坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	AM/PM	本間 英之	中島 真人	本間 英之	中島 真人	松本 吉史
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。 *原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。					
歯科口腔外科 <small>(日本歯科大学より)</small>		AM/PM	AM/PM	AM/PM	AM/PM	AM/PM
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。 ※変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話：025-234-0011)					

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます